

まずは一度、お気軽にお出かけ賜り、月例会の様子を御覧下さいませよう。

七月例会御案内

(平成二十年)

財団法人 協和協会

△会長 塩川 正 十 郎

○ 御案内

七月二十四日(木) 正午～二時半 衆議院第二議員会館一階 第一会議室 (第五八〇回)

講 題 終戦後に進攻してきたソ連軍との壮絶な戦い

講 師 大野芳(かおる)先生 ハノンフィクション作家 V

私どもは、八月になると毎年、胸の痛む思いをいたします。今年も八月十五日に第六十三回目の敗戦記念日を迎えます。それぞれに思いがあり、思い出したい面もありますが、平和ボケした昨今では、むしろこの八月こそ、先の大戦でなくなれた軍人・軍属二三〇万人、民間人八〇万人、計三一〇万人の貴い犠牲者の御冥福を心からお祈りしたいと思ひます。大東亜戦争には数えきれない悲劇がありますが、その中でも、日本が連合国に降伏し、八月十五日をもって、戦争が終結したはずなのに、その後、ソ連軍が敢えて、千島列島や樺太へ軍事力をもって進攻・攻撃をしてきて、現地日本軍は応戦せざるを得ず、多くの戦死者を出し、民間人にも多くの悲劇が生じたことです。今回は、ノンフィクション作家の大野先生が、長年調査され、終戦後の八月十七日に、ソ連軍が千島列島などへ上陸・攻撃してきて、大きな犠牲者が出たことを、話されます。悲劇の歴史を風化させないためにも、奮っての御参加を！

(清原記)

◎ 当日の会費 四千円(昼食の準備もあり、前日までに欠の御連絡をいただきました)

□ 御報告

去る六月二十七日の月例会は「昭和後期十人の首相を論ずる——岸信介総理から竹下登総理までの十名」と題して、その十名の総理に取材された御体験を持つ政治評論家の山岸一平先生(日本経済新聞・記者・政治部長・専務)に御講話をいただきました。御講話の概要は、まず、

当協会の創立会長・岸信介総理については、政治記者になって初めての総理番であり、しかも安保騒動の最中であっただけに御印象も深く、当時の状況をリアルにお話し下さり、感銘を受け、一同岸先生を偲びました。その後の九名の首相についても、その内閣成立・退陣の経緯、人となりや、まだ、世間で知られていない逸話も多く、臨場感溢れるお話で、大層参考になりました。結論的には、この時代の十名の首相はじめ大物政治家は、いずれも、二代目・三代目ではなく、御自分の力によるだけに、それぞれに個性があり、日本のためにも有意義な存在であった。しかし、その後輩出してきた総理は、二代目・三代目がいけないというのではないが、日本をどこへ持って行くのかビジョンに欠け、政治が矮小化してしまっているのと嘆かれ、その後の質疑応答も、いろいろな逸話・歴史的証言も飛び交い、大層勉強になりました。

▽ 当(財)協和協会は、「各界の志ある指導者・経験者が、党派・利害・打算を超えて、真に国家的見地から、我が国立国の基礎をなす諸課題を検討して、世の中に貢献しよう」との趣旨にて、昭和四十九年、岸信介元総理によって創設された財団。第二代会長は福田赳夫元総理。第三代会長は櫻内義雄元衆議院議長、そして、平成十五年十月七日、塩川正十郎元財務大臣が会長に就任しております。なお、平成十四年夏から、理事長に、半田晴久が就任しております。会員は、政・財・官・学・民各界の有志がバランスよく集まっています。国会議員・同秘書は随時参加自由。この月例講話会のほか、内部には、十五ほどの専門的な部会・委員会があり、これまでに、政府へ提出した意見書・要請書は、百二十五本に達しております。

事務局電話(03) 3581-1192 専務理事兼事務局長・清原淳平、重田、高津、古瀬

◎ 添付のハガキ、または、FAXにて、前日までに、頭記月例会への御返信をいただきました。

▼ 事務局FAX(03) 3507-8587

御芳名

貴方様のFAX番号

七月二十四日(木) 出 欠 (いずれかに〇印——昼食弁当を用意するためにも)